

## 研究機関名：東北大学

|  |
|--|
| 受付番号： 2014-1-39  |
| 研究課題名<br>尋常性白斑およびロドデノール含有化粧品による白斑患者での血中ビタミンD濃度の測定  |
| 研究期間 西暦 2014年5月（倫理委員会承認後）～2015年5月  |
| 対象材料<br><input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名）<br><input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名）<br><input checked="" type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録）  |
| 上記材料の採取期間 西暦 2013年6月～2014年4月   |
| 意義、目的<br>尋常性白斑およびロドデノール含有化粧品による白斑患者において、血清中ビタミンD濃度【25(OH)D】と臨床症状、経過、予後との関係を研究することを目的とする。<br>上記の疾患は、臨床的に酷似しているが、その発症要因や原因、臨床病型や予後についておよびそれらと相関する指標は明らかになっていない。そのために、治療に反応しない難治な症例が多数を占めている現状である。現在、その原因としては少なくとも難治な症例の中に、メラノサイトに対する自己免疫機序が関わっている可能性が指摘されている。近年、血中ビタミンDの欠乏と他の自己免疫疾患との関連性が指摘され、自己免疫を誘導する環境因子としての役割が示唆されてきている。ビタミンDは皮膚においてメラノサイトの活性化や増殖、移動を制御し、白斑部では活性化したT細胞を調節し自己免疫機序によるメラノサイトの障害を減少させると考えられている。白斑と血中ビタミンD濃度の関連性が明らかになれば、これまでにない新しい数値化される指標として、有用でありまた将来的にサプリメント投与による疾患予後の改善にも貢献することができると考えている。 |
| 方法 2013年6月～2014年4月までに皮膚科外来を受診された尋常性白斑およびロドデノール含有化粧品による白斑と診断された患者さんを対象とする。<br>皮膚科外来にて、将来的に病態解明につながる研究に使用する可能性があることを書面で同意を得られた患者から採取した血液を血清分離し、血清を凍結保存して保管した凍結血清を用いて検査する。このため、今回用いる血清は、採血の時点ではこの血清を使用する具体的な用途については未定であったが、患者からの同意を得て採血し保存していた凍結血清である。検査は株式会社エスアールエルに依頼し、25-HydroxyvitaminD 125I RIA Kit を用いて 25-OH ビタミンD（RIA）を検査する。この結果と患者の年齢、性別、皮疹の分布（病型）、罹病期間、臨床経過などとの関連性について評価する。原疾患のカルテとは別に本研究用のケースカードを作成して個人情報切り離し、また検体も匿名化した状態で検査を依頼して個人情報を保護する。   |

問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学医学系研究科皮膚科学分野 渡部晶子

〒980-8574

仙台市青葉区星陵町 1-1

TEL 022-717-7271 FAX 022-717-7361